

再評価実施要件		○ 事業採択後（ 年 ） ● 再評価後（ 5 年 ） ○ その他（ ）					
1 事業概要	事業名	あきがわ 厚狭川 周防高潮対策事業					
	事業場所	山陽小野田市郡 地内、西高泊 地内					
	事業主体	山口県	事業方法	● 国庫補助 ○ 単独			
	財源・負担割合	● 国 50 % ● 県 50 % ○ 市町 % ○ その他 %					
	事業期間	《事業採択時再評価時計画変更時》 平成 25 年度 ～ 平成 44 年度 《平成44年度》					
	総事業費 (内用地補償費)	《 1,875 百万円》 (1,875 百万円) (0 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	517 百万円 (0 百万円)	進捗率 (用地補償費)	28 % (- %)	
	事業目的	厚狭川は、美祢市於福の大ヶ峠を源とし、山陽小野田市吉部田沖で瀬戸内海に注ぐ、流域面積245.6km ² 、流路延長43.9kmの二級河川である。 河口部付近には公共施設や事業所、家屋等が立地しており、平成11年9月の台風18号により高潮による浸水被害が発生している。 このため、同規模の台風に対応した高潮対策を実施し、浸水被害の軽減を図る。					
事業内容	延長L=3,900m 防潮堤工						
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	社会的評価	近年、集中豪雨や大型台風等による被害が全国各地で多発している状況を踏まえ、防災・減災対策を実施し、安心・安全が確保された社会を早期に構築することが必要とされている。 特に周防灘沿岸は、入り江・湾形の多い南向きの海岸であるため、台風時における高潮・高波の影響を受けやすい自然条件を有しており、過去に高潮による浸水被害も発生していることから、周防高潮対策事業の社会的評価は高い。 厚狭川では、平成11年の台風により、浸水被害が発生しており、早急に高潮対策を実施する必要がある。				
		当地区の社会経済情勢	公共施設や事業所、家屋等が立地しており、国道190号等の主要な交通網も整備されている。				
		必要性	平成11年9月の台風18号により床上浸水39戸、床下浸水22戸の高潮による浸水被害が発生した。 同規模の台風襲来時における浸水被害を軽減するため、高潮対策を実施する必要がある。				
		適時性	大型台風等による浸水被害がいつ発生してもおかしくない状況であるため、着実に高潮対策を実施する必要がある。				
地元の推進体制等の状況及び地元の意向	【地元の推進体制等の状況】 当該事業は、自治会、漁協、河川愛護団体等の地元関係者や学識経験者等により構成する川づくり検討委員会です承されている。 【地元の意向】 高潮による浸水被害の経験から、地域住民の被害軽減に対する要望は強い。						
		中項目評価	大項目評価				
		(a)・b	A		A・B・C		
		中項目評価	大項目評価				
		(a)・b	A		A・B・C		
		中項目評価	大項目評価				
		(a)・b	A		A・B・C		

事業の投資効果

整備効果発
現状況
(H29年度
まで)

これまでに河口から山陽自動車道までの区間約1,800mについて、防潮堤の嵩上げが概ね完了しており、高潮に対する防護機能が向上している。

(2) 事業の投資効果

費用対効果
分析

(単位：百万円)

区分	主な項目	再評価時 (基準年：H24)	再々評価時		備考
			全体事業費 (基準年：H29)	残事業 (基準年：H29)	
便益 (B)	①一般資産額軽減便益	1,174	1,428	1,428	
	②農作物被害軽減便益	439	534	534	
	③公共土木施設等被害軽減便益	2,051	2,495	2,495	
	④その他の便益	20	20	17	
	総便益	3,684	4,477	4,474	
費用 (C)	①事業費	1,319	1,589	880	
	②維持管理費	242	291	243	
	総費用	1,561	1,880	1,123	
費用便益比 (B/C)		2.4	2.4	4.0	

大項目
評価

Ⓐ
・
Ｂ
・
Ｃ

【費用対効果分析手法】

治水経済調査マニュアル(案)平成17年4月 国土交通省河川局
海岸事業の費用便益分析指針 平成16年6月
(農林水産省農村振興局、農林水産省水産庁、国土交通省河川局、国土交通省港湾局)

【費用対効果分析における特記事項】

- ①一般資産被害軽減便益：整備により軽減される家屋、事業所、農漁家の資産被害額
- ②農作物被害軽減便益：整備により軽減される農作物被害額
- ③公共土木施設等被害軽減便益：
整備により軽減される公共土木施設の被害額(道路、橋等)
公益事業等被害額(電気、ガス、水道等)
- ④その他の便益：施設の残存価値

貨幣価値化
困難な便益

【プラス要因】

浸水想定区域内の人的被害及び災害による精神的被害(災害により受ける精神的ショックや疲労及び被災の可能性を意識することによる恐怖心など)の軽減効果。

【マイナス要因】

工事に伴い発生する騒音・振動

(3) 事業の進捗状況及び今後の見通し

事業進捗の
現状

事業延長約3,900mのうち、河口から約1,800m区間について、防潮堤の嵩上げが概ね完了し、順調に進捗している。

事業進捗の
今後の見通し

下流側の未整備箇所を実施した後、山陽自動車道から上流に向けて整備する予定としており、引き続き計画的な事業進捗に努める。

事業計画変更
の必要性

【事業計画変更の必要性の有無】 有 (無)

【事業計画変更の理由及び内容】

大項目
評価

Ⓐ
・
Ｂ
・
Ｃ

2 再評価の視点	(4) コスト縮減・代替案等の可能性	<p>【コスト縮減の検討状況】</p> <p>防潮堤の整備にあたっては、既設堤防を有効活用し、コストの縮減を図る。</p>	<table border="1"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>大項目評価</td> </tr> <tr> <td>(a)・b</td> <td rowspan="2">A ・ B ・ C</td> </tr> <tr> <td>中項目評価</td> </tr> <tr> <td>(a)・b</td> <td></td> </tr> </table>	中項目評価	大項目評価	(a)・b	A ・ B ・ C	中項目評価	(a)・b	
	中項目評価	大項目評価								
	(a)・b	A ・ B ・ C								
中項目評価										
(a)・b										
	<p>代替案</p> <p>【代替案の検討状況】</p> <p>代替案として「水門+排水機場案」が考えられるが、経済性等の観点から現計画の「防潮堤の整備案」は妥当である。</p>									
	(5) 環境への影響と配慮	<p>【環境への影響事項：動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況】</p> <p>当地区に生息する代表的な動植物は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物：スズキ等 ・魚類：スズキ、ボラ等 ・鳥類：アオサギ、コサギ等 <p>【環境への配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚濁防止対策として、河川内工事に際しては、汚濁防止膜を設置する。 ・低騒音・低振動の建設機械を使用する。 	<table border="1"> <tr> <td>大項目評価</td> </tr> <tr> <td>A ・ B ・ C</td> </tr> </table>	大項目評価	A ・ B ・ C					
大項目評価										
A ・ B ・ C										
	(6) 地域の立地特性	<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興地域 								
3 対応方針	() 事業実施主体案 ()	<p>総合評価</p> <p style="text-align: center;">● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止</p>								
	() 事業実施主体案 ()	<p>評価理由</p> <p>厚狭川沿川地域の高潮による浸水被害の軽減を図るため、事業を継続する必要がある。</p>								
	() 事業実施主体案 ()	<p>備考</p>								

